

平成29年度事業報告書

平成29年4月 1日から
平成30年3月31日まで

iichiko 総合文化センターと平成27年4月に開館した県立美術館の事業実施や管理業務において両施設を連携し、スケールメリットを活かした効果的、効率的な運営を行うとともに、利用者のための円滑な施設運営と良質なサービスの安定的な提供に努めた。

また、iichiko 総合文化センターと県立美術館が大分県における芸術文化の拠点として、「出会いと融合、そしてネットワーク」をキーワードとした、芸術文化の融合による新たな価値の創造に取り組むとともに、地域における課題に対して芸術文化の分野から解決に向けてアプローチした。

1-1 管理業務の実施状況に関する事項【共通事項】

(1) 施設の利用、維持管理に関する業務

- 第三者委託業務について、スケールメリットを活かすため、一部の業務について総合文化センターと美術館を一体的に管理できるように同じ業者に委託した。
- センターホール入場口前への美術館専用チラシスタンドの設置に加え、美術館ではセンターホール事業のチラシを設置したほか、美術館連絡通路に展示ポスターを設置した。
- 美術館で開催される企画展の前売券販売を集客・連携の一環として iichiko 総合文化センターインフォメーションで実施し、両施設に足を運んでもらえるような情報提供に取り組んだ。
- iichiko 総合文化センターで定期的に美術館への誘導を館内放送し、互いの施設の利用促進を図った。
- 両施設の駐車場については、一方が満車になったときの誘導を徹底し、効率的運営に努めた。
- 防災意識の醸成及び迅速な初動体制確保を目的に、地震・火災を想定した防災訓練を iichiko 総合文化センターは2回（12月、2月）、県立美術館は1回（3月）実施した。初めての取組みとして、iichiko 総合文化センターで、演奏会を開催した上で訓練を行う「避難訓練コンサート」を2月に実施。演奏中に地震・火災が起こることを想定したうえ、お客さま役として参加したボランティアスタッフ約50名の避難誘導を行うなど、より実態に近い訓練を行った。

(2) 芸術文化に関する情報収集及び提供に関する業務

- 財団全体で、事業を跨いだ共同広告やプレスリリースなど効率的、効果的な広報に努めた。
- 財団機関誌により、県立美術館や iichiko 総合文化センターのイベント情報を中心

に幅広い情報を発信した。

- 月間イベントカレンダー、ホームページ、メールマガジン、JR大分駅デジタルサイネージ、Facebook、Twitter等により芸術文化に関する情報を発信した。美術館のFacebookでは、7,000件を超える「いいね!」、Twitterでは、10,000件以上のフォロワーを獲得し、きめ細かな情報発信を行った。
- 芸術文化ゾーン創造プロジェクトによる商店街との連携の一環として商店街等でのポスターの掲示、チラシの配布等の広報活動に努めた。
- 県内メディアや実績のある芸術文化団体が主催する質の高い公演について、主催公演と同様に情報提供を行った。
- 美術館やiichiko 総合文化センターの開催行事が一覧できるカレンダーをポスター形式で掲出できるよう作成し、館内や近隣施設、県庁等に掲示した。
- 美術館展覧会の内覧会やメール等により情報提供をマスコミに対して継続的に行ったほか、テレビ・ラジオ・雑誌・インターネット等への対応によりPRを図った。
- 大分県公立文化施設協議会の会長館として、各施設の主催事業を取りまとめ（ホール・ナビ）、財団ホームページや新聞広告等を通じて県内外に情報発信を行った。
- 大分県立美術館と大分市美術館共同で、展覧会事業紹介の年間スケジュールのリーフレットの作成や共通割引券の作成、配布により、情報発信に努めた。
- 県内百貨店と連携し、百貨店会員へのDMに美術館・センターのイベントを掲載したチラシを同封するとともに、美術館等で使用できるクーポン券を満会記念品の1つとする取組を行った。
- 大分県医師会や大分県看護協会等と協定を締結し、年間を通じた機関誌での情報発信を行った。
- 別府インターナショナルプラザ（別府市外国人観光案内所）などが発行した外国人向け観光ガイドブックに、美術館情報を掲載し外国人観光客向けの情報発信に努めた。
- 大分県立美術館の通算入館者数150万人突破の記念セレモニーや150万人目の入館者に記念品を贈呈するなど話題づくりに努め、マスコミ報道による美術館情報の発信を促した。
- 9月にクロアチアで行われたThe Best in Heritageに大分県立美術館が日本代表として選出され、美術館やその取組みを紹介した。また、そのプレゼンテーション資料を活用し、紹介映像を作成、インターネットや大分空港等で放映している。
- 平成30年10～11月に開催される第33回国民文化祭・おおいた2018/第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会開催期間中の特別企画、「OASISひろば21」開館20周年記念事業の広報を新聞紙面等を通じて、県内に加え、福岡県、宮崎県にも行った。

1-2 管理業務の実施状況に関する事項【総合文化センター】

(1) 施設の利用及び利用者の便宜供与に関する業務

- 施設の利用手続きについては、利用者と円滑に調整し、クレームやトラブルといった事態は認められなかった。
- 安全対策を徹底した結果、盗難、事故などの事例は発生しなかった。
- iichiko グランシアタをはじめ、各施設において、休館日での利用希望に応じて臨時開館を行い（平成29年度実績：6件）、利用者のニーズに柔軟に対応することで、利用しやすい施設づくりに努めた。
- 利用開始時間（9時）の事前延長、利用終了時間（22時）の事後延長を合わせて72回受け入れ、深夜に及ぶ公演、早朝から準備が必要な大規模大会等に対応し、施設利用者の利便性を一層高めた。

(2) ネーミングライツの運用に関する業務

- 三和酒類(株)とパートナーシップ業務実施契約を締結し、次の業務を実施した。
 - ・パートナーシップ冠事業の表記（4事業）
 - ・三和酒類(株)に対する冠事業チケットの提供
 - ・公演のチラシ等における「iichiko」の表記
 - ・ホール利用者に対する iichiko オリジナルグッズの提供の代行
 - ・両ホールにおける iichiko オリジナルグッズの展示

(3) サービス改善提案事業に関する業務

- 舞台芸術に接する機会の少ない子どもたちが、生の舞台を体験できるよう、財団主催6公演に、大分市、別府市以外の遠隔地に居住する小学生（保護者・引率者含む）433人を招待した。

1-3 管理業務の実施状況に関する事項【美術館】

(1) 美術品等の収集、保管、展示及び利用に関する業務

- 美術品等の保管に関しては、展示及び保存の環境を適正に維持するため、収蔵庫及び展示室等の日常的な空調管理を行うとともに、常時データを記録した。
- 美術品等の管理に当たっては、機会ある毎に収蔵庫内の作品整理に努めるとともに、展示室では学芸員による作品の目視点検を日常的に実施した。また、地震等の非常時には、速やかに展示室、収蔵庫等で作品の状態チェックを行った。
- 2ヶ月を目処に年間6期にわたってコレクション展を開催し、近現代日本画、近世美術、工芸、洋画、彫刻などのコーナー毎に、大分の美術を中心にした作品619点を紹介した。展示にあたっては、テーマを設けて作品選定に配慮したほか、近世美術や工芸のうち、脆弱な素材のものや、保管上注意を要する作品については、会期中、展示替えを行った。
- 「大分の先人たちの知性と感性に学ぶ」をテーマに「おおいた温故知新2017」

のコーナー展示をコレクション展示室内で実施し、コレクション展Ⅳで「咸宜園開塾200年 咸宜園ゆかりの人々」、コレクション展Ⅵでは「別府竹細工の始まり」を開催した。

- 29年度大分県立美術館美術資料評価委員会に諮る美術資料等の借用、資料作成などを継続するとともに、委員会開催において当該美術資料の説明等を行った。
- 東京文化財研究所にガラス水平折り戸開閉時の空気環境データを報告し、今後の運用について協議を継続した。

(2) 美術品等の調査及び研究に関する業務

- 図書及び作家資料等の整理を継続的に行った。
- 収集対象作家及び県関係作家とその作品について、情報収集に努めるとともに機会ある毎に調査を継続した。
- 「2016年度年報」及び「紀要第2号」の編集を行った。
- 自主企画事業「総合芸術家の全体像 イサム・ノグチー彫刻からダンス・庭へー」のカタログ等の編集を行った。
- 「おおいた温故知新2017」のリーフレットを編集、作成した。

(3) 美術に関する講演会、講座等の開催等、教育普及に関する業務

- 毎週金曜日は、夜間開館の時間帯を利用して中学生から一般を対象にワークショップやレクチャーを行う「夜のおとなの金曜講座」、土曜日は子どもから大人まで年齢に応じたワークショップと鑑賞を連動させて行う「みんなの土曜アトリエ」、日曜日は手仕事を通じて創作を楽しむ「アトリエミュージアム」を開催し、幼児から一般鑑賞者にいたるまで美術に気軽に親しむ機会を提供した。また、火曜日午前中には、休日や夜間の利用が困難な一般来館者を対象にワークショップやレクチャーを行う「朝のおとなの1010講座」を開催した。
- OPAMサポーターを対象に、定期的にコレクションや美術館業務に関する研修会を開催した。
- 大分大学教育学部、教育センターの依頼を受けて、教員のステップアップ研修を実施したほか、竹田、佐伯の教育事務所で教員向けワークショップ等を実施した。
- 財団企画普及課関連事業として、「0歳からのわくわくアート遊園地」にて、ワークショップをiichikoアトリウムプラザで開催した。
- 学校連携事業として、県内各地の小中学校等を対象とした出張ワークショップ(事前学習)と美術館に招いての鑑賞会を組み合わせたプログラムや学校教員のためのワークショップ等を実施した。
- アウトリーチ活動を県内幼稚園、小学校、中学校等で開催した。
- 美術に関する興味、関心をさらに高めるため、県内外の講師を招いて「植物をめぐる七つのお話」と題した連続講座を実施した。
- 東京国立博物館や奈良国立博物館、JAXA、六郷満山僧侶、レーシングドライ

- バーなどによる講演会やトークショーを開催し、県民の美術や科学、スポーツ、文化などへの理解を深める取組を行った。
- 北大路魯山人展の会期中、アトリウムを活用したお茶会やホワイエを活用した筑前琵琶の演奏会など、集客及びサービス向上に努めた。
 - NHK大分放送局と連携した「今夜も生でさだまさし」の生放送や、文化庁主催の「カルチャーニッポンシンポジウム」の開催などにより、アトリウムの多様な活用に積極的にチャレンジし、新たな可能性を広げた。

2-1 自主事業の実施状況に関する事項【芸術文化ゾーン】

(1) 芸術文化の拠点づくり事業

- 近隣商店街役員等をメンバーとする大分県芸術文化ゾーン創造プロジェクト実行委員会を3回開催し、事業実施方針や内容等の協議及び実施体制等の情報共有を図った。
- 8月4～6日に、「Tanavata Starlight Express 2017」と題して、大分市の七夕祭り と連携し、美術館、iichiko 総合文化センター、国際交流プラザの情報発信を行い、アート、パフォーマンス、文化等が融合した事業を実施した。
- 12月15～17日に、「HEart of Christmas! 2017」と題して、商店街等と一体となって、アート、パフォーマンス等が融合した事業を実施した。また、21日には、井沢元彦氏講演会を iichiko 音の泉ホールで開催した。
- 大分市中央通り歩行者天国推進委員会幹事として、年3回開催される歩行者天国の企画・運営に商店街や周辺大型店舗関係者等と取り組むとともに、歩行者天国開催時には財団として、美術館展覧会や iichiko 総合文化センター公演等を PR するためのブースを設置した。
- 平成30年度に開催される国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭 の機運醸成等を図ることを目的としたアートシーン創出事業を県から受託し、「ReLIFE@おおい たプロジェクト」や「OASIS スプリングステージ」など15本のアート関連イベントを美術館及び iichiko 総合文化センターで開催した。
- 芸術文化短期大学との連絡会議を開催し、28年度の連携事業の状況や29年度の事業計画などについて、報告・協議を行った。

(2) 地域連携・ネットワークづくり事業

- 大分県公立文化施設協議会を開催し、28年度事業報告・決算や29年度事業計画・予算等を審議するとともに、共同広報・共同研修等の連携事業の実施内容及び状況についての報告・協議を行った。
- より多くの県民が本物の舞台芸術に気軽に触れる機会を増やし、県内における新たな芸術ファンを掘り起こすなどすそ野の拡大を図るとともに、文化ホールスタッフの公演開催に関するノウハウを共有するため、九重文化センターとの共同企画として公演会「邦楽のススメ」を開催した。
- 県立芸術文化短期大学とのネットワーク事業の一環として、学生6人をインター

ンシップとして、8月に iichiko 総合文化センターで、9月に県立美術館で、計5日間受け入れた。

- 4月に iichiko 総合文化センターで実施しているレセプション研修会に大分県公立文化施設協議会加盟館職員が参加し、接遇技術の向上を図った。
- 7月の九州北部豪雨災害の復興支援の観点から、日田市小野地区（8月）及び大鶴地区（12月）で、地元公民館の協力を得て、「音楽の力による心の復興コンサート」を開催した。
- 国庫補助事業（10/10）の受け皿として設置したアートフル大分プロジェクト実行委員会では、9月4日から7日間、中津市立小幡記念図書館等を会場に、10月12日から3日間、竹田市役所久住支所内の久住高原美術館を会場に「地域巡回展」を開催した。その中で、中津市では中学1年生全員を、一方竹田市では幼稚園児とこども園児全員をバスにて招待した。また、11月3日に国東市立安岐中学校、11月24日には津久見市立津久見第一中学校で「美術館をもっと教育に」をテーマに「スクール・ミュージアム」を開催した。
- 一方、美術館機能を継続的に学校教育で活用してもらいたいとして、教育委員会等と設置した「地域の色・自分の色」実行委員会では、子どもたちが野外で集めてきた自分の好きな色の鉱物や植物などを素材に絵の具や染料を作り、「自分の好きなもの」をテーマに絵を描く、布を染めるという取組みを地域ぐるみ、学校ぐるみで進めている。身近な自然への関心を高め、故郷の魅力を再発見する取組みが評価され、「第66回読売教育賞 最優秀賞（美術教育部門）」を受賞した。
- 11月29日～12月1日の間に、第65回全国博物館大会を iichiko 総合文化センター及び美術館で開催した。

2-2 自主事業の実施状況に関する事項【総合文化センター】

（1）鑑賞系事業

オペラ、バレエ、オーケストラ、室内楽、ミュージカル、演劇、歌舞伎等の伝統芸能を柱とし、年間を通じて、幅広いジャンルに質の高い舞台公演を財団の企画により実施している。特に29年度の新たな取組として、幅広い愛好者を持つ吹奏楽と、室内楽ではチェンバロの巨匠・小林道夫、若手実力者ウェールズカルテットによるベートーヴェン弦楽四重奏曲を継続的に取り上げることとした。共同制作オペラとして、東京二期会・愛知県芸術劇場等と共に、英グラインドボーン音楽祭提携のオペラ『ばらの騎士』（R. シュトラウス作曲）を上演した。

詳細は別紙1のとおり。

（2）人づくり事業

結成9年目を迎える「iichiko グランシアタ・ジュニアオーケストラ」の活動や8年目となったミュージカル体験ワークショップの開催などにより、芸術文化活動への参加と発表の場を充実させ、心豊かな人材を育成する事業を継続的に実施した。

詳細は別紙1のとおり。

（3）普及系事業

芸術文化の普及・拡大を目的として、初心者でも気軽に親しめるように、歌舞伎、オペラ、チェンバロのレクチャー、舞台メイクや邦楽のワークショップ等を開催した。また、遠隔地に居住するなど日頃クラシック音楽に触れる機会の少ない人に、クラシック音楽の楽しさや生の演奏の迫力を身近に味わってもらうアウトリーチ活動を学校や公民館を中心に展開した。特に、昨年7月の豪雨災害に対応して、「音楽による心の復興コンサート」を日田市2か所で行った。

詳細は別紙1のとおり。

(4) 文化事業を担う人づくり

文化事業担当職員の研修の充実を図るとともに、公演時のアンケート調査等を活用して県民ニーズの把握に努め、自己評価を行うことにより、サービスの一層の向上と業務改善、職員の意識改革を図った。

2-3 自主事業の実施状況に関する事項【美術館】

(1) 質の高い魅力的な企画展の開催

県民が身近に国内外の優れた美術作品等に接することができるよう、美術館独自の自主企画を含む多様な企画展を開催した。

詳細は別紙2のとおり。

(2) 館内サービスの充実

- ミュージアムショップではこれまで事業者と企画・開発を行ってきたオリジナル商品の販売、カフェでは各企画展と連携したメニュー提供等を行った。
- ミュージアムショップ、モバイルカフェは移動可能という特性を活かし、イベントに併せた柔軟な配置移動を行った。
- 平成29年度末でショップ・カフェの委託契約期間が満了となることから、平成30年度以降の委託業者選定の審査会を実施。より魅力的になるように条件を付したうえ業者を選定。新商品、新メニューの開発など継続して協議を行った。
- 4月の入学シーズンに、アトリウムで「入学おめでとうフォトスポット」を設置。iichiko 総合文化センターで入学式を終えた学生が撮影のために美術館に訪れ、両施設の相乗効果も見られた。
- コレクション展及び企画展については、お客様のご意見をより多く回収するため、各展示室の出口に新たなアンケート台を設置。前年度に比べて多くの回答が集まった。寄せられた意見に対しては可能なことから順次対応を行った。
- 空気環境の安定する、春と秋のシーズンに計10日間、ガラス水平折戸を解放した。解放した折戸のそばで、国民文化祭1年前イベントやお茶席を開催するなど、開かれた美術館としてのPRを行った。
- 企画展開催期間中、混雑が予想される日は開館時間を1時間早めるなど、混雑を緩和し、ゆっくりと展覧会を楽しんでいただける体制を整えるとともに、涼しい館内に早めに入ってもらうなど、安全管理及びサービス向上に配慮した。

- 年中無休、夜も営業という当館の特色を活かし、夜のギャラリートーク「夜な夜な美術館」を各企画展で開催。初めて美術館に来る方に親しみを感じてもらえるようガイドツアーを実施した。
- 11月の2週間、美術館の西側に設置されたライトにパープルフィルムを貼付して「平成29年度大分県女性に対する暴力をなくす運動 ～アイネス パープルプロジェクト～」の啓発活動に協力した。
- OPAM入館者150万人突破を記念して、期間限定でコレクション展の入場者にオリジナルポストカードを配布した。
- 情報コーナーでは、美術全般や企画展、大分ゆかりの作家等に関する閲覧用図書提供等を行った。
- 1月1日にミュージアムショップで限定10個の福袋を販売するとともに、1月2日の入館者先着100名に対して、記念品の配布を行った。
- お正月期間中、カフェで利用できるサービス券発行を行うなど、開催中の企画展や美術館のPRに努めた。
- コレクション展と企画展入場券のクレジットカード決済システムを導入。30年度より運用開始とした。
- 来館者に対して、建物やアトリウム展示等を紹介する、OPAMサポーター館内ガイドツアーを月曜日と木曜日に実施した。
- 空気環境の安定する春と秋のシーズンにガラス水平折戸を開放するとともに、オープンカフェ等を実施した。
- 3月に遠隔手話通訳サービスシステムをインフォメーションカウンターに導入。幅広い利用に答えられる体制を整えた。
- 小さなお子様連れの来館者に、ゆっくりと美術館を楽しんでもらうために、県の補助金を活用して、1階アトリウムに県産木材を活用した「木育たまごプール」と「積み木のセット」を設置した。

3 友の会事業

- iichiko 総合文化センター1階インフォメーション・大分県立美術館1階インフォメーションを窓口として、案内及び入会・更新手続を行った。3月末の会員数は7,929人（前年同期 7,611人）。
- 有料会員が特典を受けられる「びびSHOP」の加盟依頼を行い、「びびBOOK」を発行した。
- 大分県立美術館企画展内覧会やミニコンサートなど会員向けイベントを、年間7回実施し参加者の好評を博した。
- 有料会員向けに、財団イベント等の最新情報を2ヶ月に1回程度郵送した。
- 会員向けに、月2回程度メールマガジンを送信し、情報提供を行った。
- 期限を迎える会員に更新案内を発送し、更新の促進に努めた。
- 会員が新規入会会員（ことぶき、たかさご）を紹介すると、双方にカフェチャリテで使えるお食事クーポン（ことぶき：1,000円分、たかさご：500円分）をプレ

ゼントするキャンペーンを試行した（11/15～2/28）。11名から申込みがあり、22枚（額面14,000円分）のクーポンを発券した。

- じゃらんリサーチセンターへ委託し、友の会調査分析事業を実施。①既存会員情報（会員管理システム）分析、②会員アンケート調査、③一般県民アンケート調査の結果を踏まえ、会員増に向けた対策を検討した。
- 更新インセンティブを付与するため、期限内更新者への割引会費（各ランク10%OFF）を設定し、平成30年3月末更新者から実施した。

4 国際交流事業

県民と外国人との相互理解と友好親善の推進及び在住外国人に対する支援を図るため、「県民・在住外国人に広く開放された国際交流の拠点づくり」、「在住外国人の生活に対する支援及び県民・在住外国人に対する情報発信」、「国際交流団体等への支援」を3本柱として事業を実施した。

詳細は別紙3のとおり。

(1) 県民・在住外国人に広く開放された国際交流の拠点づくり

①国際交流情報の収集・提供と交流の場づくり

おおいた国際交流プラザでは、新聞・雑誌・外国語図書等を配置し、県民・在住外国人の利用に供している。また、県の国際交流員を活用して、平成30年1月から毎週金曜日に英語・中国語・韓国語を使用するFREE TALK CLASSを開始した。

②多文化共生意識の醸成と地域づくり

カメルーン、フィリピン、インドネシアの生活・文化を紹介する国際理解講座、ワールドカップラグビーに関連してフィジー、ウェールズを紹介する国際理解講座を開催した。

③海外との連携

国際七夕フェスタでカメルーン共和国臨時大使の参加を得て国際パレードを行った。国際学会インセア2017に併せ韓国の釜山・大邱で財団のプロモーション活動を行った。

(2) 在住外国人の生活に対する支援及び県民・在住外国人に対する情報発信

①在住外国人の生活支援

居住・子育て・在留資格等について在住外国人を対象とする多言語（英語・タガログ語・中国語）による生活相談を行った。

②コミュニケーション支援

ホームページの運営や機関紙の発行、SNSの活用による情報発信に加え、ボランティアを活用して通訳・翻訳支援を行った。

③日本文化体験講座の開催

在住外国人（国際交流員・英語指導助手）を対象に、和服着付け・茶道・書道に関する日本文化体験講座を開催した。

（３）国際交流団体等への支援

①交流団体と連携・支援

大分カメルーン共和国交流協会の設立、大分華僑華人会の教育文化活動を支援した。日本語教室の運営や外国人と交流活動を行う団体の事業を支援した。

②国際人材の育成推進

通訳・翻訳ボランティアに対して観光・やさしい日本語をテーマにスキルアップ講座を開催した。併せて学生ボランティア２３名を養成した。

５ スポーツの振興

（１）地域のスポーツ振興

- ① 8月5日～6日に、ラグビーワールドカップ2019大分県推進委員会と連携して、i i c h i k o総合文化センターで実施した「七夕スターライトエクスプレス2017」において、写真パネルと顔出しフォトパネルを展示し、ラグビーワールドカップ2019の周知・機運醸成を図った。
- ② 8月5日～6日に、株式会社大分フットボールクラブと連携して、i i c h i k o総合文化センターで実施した「七夕スターライトエクスプレス2017」において、トリニータの貴重な写真やポスター等を展示し、シーズン後半戦への観客増加に向けたPRを行った。
- ③ 3月13日～22日に、大分県と共催し青山学院大学陸上競技部等の協力により、美術館において、箱根駅伝や大分キャンプの写真パネル、ユニフォーム等を展示した「青山学院大学陸上競技部2018春季大分キャンプ記念写真展 in OPAM」を開催し、スポーツへの興味・関心を高めた。

（２）（株）大分フットボールクラブへの貸付金管理

平成17年9月に大分トリニータを運営する（株）大分フットボールクラブへ貸付けた2億円については、平成25年3月をもって償還が完了した。

また、平成22年11月に融資した2億円についても、県と連携して滞りなく返済されるように貸付金の管理を行い、平成29年11月をもって償還が完了した。

６ アーツ・コンソーシアム大分構築計画

大分県、大分県立芸術文化短期大学とともに平成28年度に設立した共同事業体組織「アーツ・コンソーシアム大分」において、文化政策の意義や、芸術文化振興施策・事業の評価のあり方について調査研究を行うとともに、実際の県内アートプロジェクトの事業評価に協力し、それらの成果を踏まえてアートプロジ

ェクト評価の標準的手法を作成した。以上の内容を「平成 29 年度アーツ・コンソーシアム大分構築計画実績報告書」に取りまとめて公表した。

7-1 管理施設の利用状況及び目標指標の達成状況に関する事項

【総合文化センター】

(1) 各施設の利用状況

① iichiko グランシアタ（大ホール）

- 平成 29 年度の利用件数は 218 件（前年度の利用件数は 207 件、過去 5 年間の平均件数は 215 件）
- 内訳は、音楽 126 件、舞踊 23 件、演劇 21 件、その他（講演・大会）48 件
- 利用率は 90.5%（前年度の利用率は 87.7%、2.8 ポイントの増）

② iichiko 音の泉ホール（中ホール）

- 平成 29 年度の利用件数は 237 件（前年度の利用件数は 231 件、過去 5 年間の平均件数は 228 件）
- 内訳は、音楽 141 件、舞踊 19 件、演劇 14 件、その他（講演・大会）63 件
- 利用率は 85.9%（前年度の利用率は 84.6%、1.3 ポイントの増）

③ iichiko アトリウムプラザ

- 平成 29 年度の利用率は 54.0%（前年度の利用率は 46.8%、7.2 ポイントの増）

④ 会議室

- 平成 29 年度の利用率は 52.1%（前年度の利用率は 51.2%、0.9 ポイントの増）

⑤ iichiko スペース・ビー

- 練習室の平成 29 年度の利用率は 93.9%（前年度の利用率は 94.0%、0.1 ポイントの減）
- 県民ギャラリーの平成 29 年度の利用率は 62.3%（前年度の利用率は 66.1%、3.8 ポイントの減）
- 映像小ホールの平成 29 年度の利用率は 43.5%（前年度の利用率は 43.5%、前年同率）

⑥ 駐車場（詳細については別紙 4）

- 駐車場の平成 29 年度の入庫台数は 219,107 台（前年度の入庫台数は 214,884 台、4,223 台の増）。

(2) ホール入場者実績（詳細については別紙5）

- 平成29年度の iichiko グランシアタ入場者数は174,076人、前年度の入場者数は171,144人（2,932人の増）
- 平成29年度の iichiko 音の泉ホール入場者数は、61,432人、前年度の入場者数は62,718人（1,286人の減）
- 両ホール合わせて235,508人。前年度の入場者数（233,862人）と比べ、1,646人上回った。

(3) 目標指標の達成状況（詳細については別紙6）

大分県立総合文化センターの管理に関する基本協定書第12条に定められた目標指標の年間ホール利用率87.0%以上に対し、平成29年度の実績は88.0%とホルトホール大分が開館した平成25年度以降、5年ぶりに目標を上回った。

7-2 管理施設の利用状況及び目標指標の達成状況に関する事項【美術館】

(1) 各施設の利用状況

① 展示室 A

○企画展と貸館利用を併せての利用日数は、323日、25催事（前年度は336日、31催事）。

② 展示室 B

○企画展と貸館利用を併せての利用日数は、334日、29催事（前年度は288日、25催事）。

③ 研修室

○貸館、教育普及事業を含め利用日数は103日（前年度は98日）

④ アトリエ

○貸館、教育普及事業を含め利用日数は247日（前年度は216日）

⑤ アトリウム

○美術館事業としてマルセル・ワンダースの「ユーラシアン・ガーデン・スピリット」等の美術作品を無料で鑑賞していただけるよう、年間通して展示した。

○入館者の増加を図るため、フルートや三味線の音楽演奏会、大分トリニータや青山学院大学陸上部など大分にゆかりのあるスポーツ団体の展示、その他、県主催のイベントや展示室との併用利用など幅広くイベントを受け入れたことにより、245日（前年度は159日）の利用があった。

⑥ 駐車場

○入庫台数は108,327台（前年度は65,657台）
詳細については別紙4のとおり。

(2) 来館者実績

年間来館者数は648,223人。前年度の入場者数（434,518人）と

比べ、213,705人上回った。
詳細は別紙7のとおり。

(3) 目標指標の達成状況

大分県立総合文化センター及び大分県立美術館の管理に関する基本協定書第12条に定められた目標指標の年間来館者数50万人以上に対し、平成29年度の実績は、648,223人と目標を大きく上回った。

8 目標指標達成・収入増加の取組

○iichiko 総合文化センター

- ・ホール利用者には当日精算時に次回以降の利用について情報収集するとともに仮押さえや申請を促すなど利用促進を図った。また、仮押さえの早期確定に努め、キャンセルとなった日にはキャンセル待ちの希望者に連絡をするなど、利用率向上に努めた。
- ・問い合わせまではしないがホール利用に興味はあるという人の心理的ハードルを下げるため、申し込みから当日利用までの流れがわかる簡易チラシを館内に配置した。
- ・ホール備品でありウィーンの至宝とも呼ばれるピアノ「ベーゼンドルファー」の魅力に触れることができる試奏会を6回開催したほか、日頃音楽ホールに足を運ぶことの少ない県民を対象に映画祭を開催した。
- ・これまで練習室利用者1名に駐車券1時間分を提供していたが、会議室、アトリウムプラザ、県民ギャラリーの利用者にも範囲を拡大した。

○大分県立美術館

- ・目標の年間目標入場者数500,000人は11月20日に達成。最終入場者数は648,223人で開館以来最多の入場者数を記録した。
- ・美術館駐車場が満車の場合は入口に警備員を配置し、総合文化センターへ誘導（総合文化センターが満車の場合は美術館へ誘導）することで、両施設の連携に努めた。
- ・多くの入館者が予想される日は県に臨時開館の申請を行ない、開館時間を早めるなどお客さまを万全にお迎えする体制を整えた。
- ・美術館のホームページやTwitter、Facebookを利用して、企画展だけではなく、貸館利用者の展示会についても積極的にPR活動を行った。
- ・学芸員によるギャラリートークを数多く行うと共に、建築ガイドツアー、OPAMサポーター（ボランティア）による美術館案内など、美術館に親しんでもらう機会を幅広く提供した。

9-1 利用者満足度調査に基づく課題分析の結果、業務改善の実施状況及び自己評価 【総合文化センター】

(1) 利用者満足度調査の実施状況

① 調査の概要

3月に施設利用者704人を対象に利用満足度に関する、一斉アンケートを実施した。(287人回答、回答率40.8%)

② 結果分析

一斉アンケート調査結果の分析は次のとおり。

ア 利用回数

- ほとんどの施設において2回目以上の利用が85%以上となっており、リピーター率が非常に高い。
- 引き続きリピーターを確保しながら、新規利用者を獲得することが必要。

イ 利用理由

- これまでの調査と同様に、「立地がよい」、「施設・設備が充実」を選択した利用者が多く、「料金が適正」、「知名度が高い」が続く。
- 「立地がよい」は前年度の77.0%から76.3%と2年連続でやや減少しているが、ホルトホール大分と利用内容によって使い分けしているのが感じられる。
- また、「サービスがよい」が前年度の14.7%から15.3%と2年連続で増加しており、努力の成果が出ている。
- 知名度を理由とした利用は昨年度の34.3%から30.7%と3.6ポイント低くなったが、「立地」「設備」「サービス」がよい事で安心してご利用いただいていることがわかる。

ウ 利用料金

- 「普通」が51.6%、「少し高い」が32.8%と大半を占める。
- 「少し高い」の比率は昨年度調査の31.7%から1.1ポイント増加し、「普通」が2.0ポイント減少している。

エ 職員の対応

- 「やや満足」以上が80.1%、「普通」を含めると98.2%と高い評価を受けた。
- 「不満」の回答はなく、「やや不満」という回答は5件と昨年度の3件よりも増えたが、今後さらなる自己研鑽や研修によるスキルアップにより全ての方に満足いただける対応を目指す。

オ 利用申請手続き

- 「簡単」が31.7%と昨年度の23.3%から増加し、「面倒」が9.4%と昨年度より減少している。ホール予約が年ごとに競争が激しくなっており、抽選に毎週来館することが面倒だと考える利用者が増加している。引き続き事務改善により可能な限りお客様負担の軽減を図る。

カ 利用満足度

- 「ほぼ満足」が一番多く56.1%、次に「大変満足」が27.9%、「普通」の15.7%を合わせると、ほぼ100%の利用者にご満足いただいている。

キ 次回利用

- 「是非使いたい」と「使いたい」の合計が80.9%と次のご利用を希望されるお客様が大半を占めるが、「検討する」という回答も18.1%あり、このうち約半数が会議室利用者である。利用区分への要望が主なものであるが、次回の利用を獲得するために他のサービスで満足度向上を図りたい。

(2) 業務改善の実施状況

施設利用者や入場者からの意見、要望に対して、次のとおり業務改善を行った。

- 大規模公演時に満車になると行き場所がない。
 - ・県立美術館と iichiko 総合文化センター共通の駐車場案内チラシを館内設置やホームページや新聞広告での告知に努めたほか、一方の駐車場が混雑する際には、警備員によって、もう一方の駐車場へ誘導している。
- 会議室の通信環境がよくない
 - ・会議室前ラウンジにはこれまでも無料 Wi-Fi サービスなどはあったが、会議室内での多様なご利用に対応できるよう Wi-Fi ルータを設置した。
- 分煙環境を整えてほしい。
 - ・楽屋口に分煙ルームを残して会議室前ラウンジやOASISひろば外構部の喫煙所を撤去し、分煙環境を充実した。

(3) 指定管理者としての全体的な自己評価

① 成果指標とその分析

ア 施設利用状況

a 利用件数

- 平成29年度の利用件数は、iichiko グランシアタが218件、iichiko 音の泉ホールが237件。
- 前年度と比較して、両ホールとも利用数が増加した。
- 土・日・祝日の利用は飽和状態であり、予約受込日に希望が重なった場合はできるだけ双方に利用していただけるよう利用調整を行った。

b 利用率

- 平成29年度の iichiko グランシアタ、iichiko 音の泉ホール、両ホール合わせた利用率は年間累計で昨年度より1.9ポイント増加し、88.0%となり、目標指標87.0%を達成した。
- 利用率向上に向けた対応策
 - ・舞台技術スタッフ、清掃、警備と連携をとりながら休館日の利用（両ホール合わせて6件）を希望されるお客様を最大限に受入れるとともに、仮申込と取消の確定をこまめに実施することで利用率の向上を図った。
 - ・会議室、練習室については、類似施設となるホルトホール大分の影響も

あり、利用者が減少している。貸出区分など対応の難しい課題があるが、今後も地道な営業活動や接客対応等により、1件でも多くの利用者獲得に努める。

c 入場者数

○平成29年度における入場者数は、iichiko グランシアタが174,076人と前年度(171,144人)より増加した一方、iichiko 音の泉ホールは61,432人で前年度(62,718人)より減少した。両ホールを合わせた総入場者数については235,508人であり、前年度よりも公演数が伸びたため、増加した。

d 地下駐車場利用状況

○平成29年度は公演数の増加に伴って利用台数、駐車場利用料収入とも増加した。練習室利用者に対する駐車料金サービスの対象を会議室、アトリウム、県民ギャラリー利用者にも拡大し、延べ3,655名の利用者があった。減少傾向であった練習室や会議室の利用件数が増えるなどの効果も見られ、平成30年度も当該サービスを継続する予定である。

イ 自主文化事業(主催事業)(詳細については別紙8)

a チケット売上比率(チケット売上枚数/チケット販売可能枚数)

○チケットの売上比率は、「ワンコインリレーコンサート」Vol.4 ヴァイオリンが92.6%、「キューティ・ブロンド」が92.8%、「かがみのかなたはたなかのなかに」が2回平均で87.2%、「ジュニアオーケストラ第9回定期演奏会」が92.3%で評価A(85%以上)、「松竹大歌舞伎」が83.1%で評価B(85%~75%)となった。他の公演は評価C(75%以下)にとどまった。

○娯楽の多様化や厳しい経済情勢の影響等によりチケット販売の低迷は全国的な傾向と言われているが、文化情報として新聞記事にしたり、メディアとの共同主催として広告を実施するなどにより、売上向上に成功した試みもあった。引き続き、新たなチケット販売戦略の立案や広報宣伝戦略の練り直し等、集客に向けてより一層努力したい。また、コンサートに関連したレクチャーの実施や関連映画の上映なども、チケット売上により影響を与えており、今後も工夫して対応していきたい。

b 経費の自立度(チケット等売上額/公演総経費)

○事業効果を高めながら経費節約に努めた結果、「小林道夫チェンバロリサイタル」と「松竹大歌舞伎」「かがみのかなたはたなかのなかに」が評価A(70%超)、「キューティ・ブロンド」と「ベートーベン弦楽四重奏全曲演奏会 第2夜」が評価B(70~50%)、その他の公演が評価C(50%以下)となった。

○いずれも入場者からは、「素晴らしく内容のある演奏を聴くことができた。」「同様の公演をまた開催してほしい。」、などの感想が多く届けられており、良質の公演をより多くの県民に鑑賞いただけるよう、PRの媒体や内容をこれまで以上に工夫したい。また、これまで舞台芸術に関心のな

- かった人たちにも本物の舞台を鑑賞する機会を提供し、ファン層の拡大を図ることにより、質の高い公演を継続できるよう運営に工夫を凝らしたい。
- c 当日入場者比率（入場者数／チケット提供枚数）
- 当日入場者比率は、ほとんどの公演が評価A（90%超）となり、購入者の公演への関心の高さをうかがわせた。
 - 今後もホールの機能を活かした魅力的な公演の開催を工夫すると同時に、より効果的な広報・営業を通じて入場者を増やすよう努力していく。

② 業務の取り組み内容に関する評価

ア 施設及び設備の維持管理及び修繕

- 日々状態の変化する施設において、常に職員が高い安全意識を持ち、併せて関係機関との連絡調整を徹底することにより、質の高い施設の管理・運営を行った。
- エレベーターや舞台設備など専門性を有する部分については、業者による定期点検を実施し、異常箇所があれば即座に連絡を取り合う体制を確立することができた。
- 小規模な修繕については財団で対応していく一方、長期的視点からの大規模改修については県施設整備課と連携しながら計画的に取り組むことができた。
- 地下駐車場についても大きなトラブルもなく、入出庫及び駐車管理を円滑に行った。

イ 施設の利用及び利用者の便宜共用

a 施設利用に係る申込受付等の対応

- 施設利用の受付では、新規の利用者はもちろん、リピーターに対しても、円滑な利用が出来るよう、施設概要の十分な説明を行った。特に県立美術館に関しては利用が見込まれる団体に対して貸出方法等について事前に説明会を開催し、混乱のないように努めた結果、トラブルもなく推移している。
- 総合文化センターの利用にあたっては、必ず施設利用者、舞台技術スタッフ、財団職員の三者で打合せを行っており、催事の円滑な実施が図られた。このとき作成した利用計画表などの運営記録を保存しており、次回の催事をより充実したものにするための貴重なノウハウとなり、財団職員のスキルアップにもつながっている。
- 利用当日においては、巡回やモニターチェックにより、施設利用者が何をしているか、何に困っているかを常に把握し、場合によっては直ちにフォローすることで、気持ちよく施設を利用していただくことができた。
- 1階インフォメーションコーナーには財団職員が直営で、施設予約の受付、友の会入会、チケット販売、駐車券販売等、ワンストップでお客様対応が

可能な総合窓口業務を実施した。特に、美術館企画展の前売りチケット販売を行うことで両施設の連携に努めた。

b 臨時開館及び利用時間延長

○iichiko グランシアタをはじめ、各施設において、休館日での利用希望に応じて臨時開館を行い（平成29年度実績：6件）、利用者のニーズに柔軟に対応することで、利用しやすい施設づくりに努めた。

○利用開始時間（9時）の事前延長、利用終了時間（22時）の事後延長を合わせて72回受け入れ、深夜に及ぶ公演、早朝から準備が必要な大規模大会等に対応し、施設利用者の利便性を一層高めた。

c お客様からの要望や意見等への対応

○より身近に利用者の声を受け入れる環境づくりを進め、集まった多くの意見・要望に対し、できることはすぐに対応し、各関係機関と協議しながら必要なものについては予算を確保したうえで実現に努めた。

d 職員研修の実施

○「全国公立文化施設協会研究大会」や「業務マネジメントセミナー」、「九州地域アートマネジメントセミナー」、「九州地域技術職員研修会」に職員が積極的に参加し、これからの文化施設の在り方や施設の円滑な運営を行うためのノウハウ等を学び、今後は、施設利用者との打合せ等でその成果を活かすことができる。

ウ 自主事業の実施

鑑賞系事業

○オーケストラ公演として、『九州交響楽団』の定期公演をそのまま大分に持ち込んだ2回目の企画。ドイツ人指揮者に合わせドイツ音楽プログラムで統一したが、期待ほどには入場者は伸びなかった。今後、演奏曲目など工夫の余地がある。一方、久しぶりに取り組んだプロ吹奏楽団公演は、好評であった。合同演奏への参加などの関連企画も高い評価をいただいております、継続的に取り組んでいきたい。

○歌舞伎公演は、毎年根強い人気のある『松竹大歌舞伎』で、名作の演目「義経千本桜」を人気役者中村獅童が演じ、好評であった。また、中学生の団体鑑賞もあり、若い世代に対して古典芸能への理解を深めることができた。

○室内楽公演として、『小林道夫チェンバロリサイタル』では、バッハ音楽の第一人者小林道夫氏（由布院在住）が平均律クラヴィーア曲集第1巻の全曲演奏に挑み、聴衆を魅了した。また、『ベートーベン 弦楽四重奏全曲演奏会第2夜』では、若いウェールズ弦楽四重奏団が計算された精緻なアンサンブルをみせ、高い評価を得た。室内楽公演は、内容への評価は高く今後も継続していく内容であるが、観客が幾分少なく啓発活動が必要と考える。

○演劇公演として、『かがみのかなたはたなかのなかに』では、近藤良平、首藤康之、長塚圭史、松たか子の4人の豪華キャストが演じ、内容も時にコミカル

時にシリアル、近づいたり反ばくしたり、笑いあり最後は考えさせられるもので、満員のお客様から高い評価を得られた。

- オペラについては、共同制作で『ばらの騎士』を上演し、海外の音楽祭との提携公演で、衣装・照明・舞台装置も同音楽祭から持込みで、オペラの本場である欧州の豪華で洗練された内容で、評価も高かった。ただ、連休中であったことから、幾分入場者も少なく、啓発活動に工夫した取組が必要と考える。
- ワンコインリレーコンサートは、500円で1時間のコンサートという気軽さと、雅楽・アルプス音楽・打楽器・ヴァイオリン・フルートとバラエティに富み、かつ充実した内容から、聴衆の評価も高かった。

人づくり事業

- 結成9年目を迎える「iichiko グランシアタ・ジュニアオーケストラ」の活動としては、地元講師の指導に加えて、今年度は九州交響楽団員からのパート別指導に、更に指揮者の3回に及ぶ特別レッスンもあり、充実した練習指導環境となった。その成果は本番の演奏に現れており、「子どもたちの演奏とは思えない演奏」と関係者の評価も高かった。加えて、アルゲリッチ音楽祭の「子どもによる子どものためのコンサート」への出演、佐世保市のアルカス SASEBO で開催された『アルカス九十九島音楽祭』への参加は、特筆すべき内容であった。
- ミュージカル育成事業としては、本場ブロードウェイのミュージカルナンバーでステージを飾る企画の2年目。公募による幅広い年代層の一般参加者約80人が、約半年間、稽古を積み重ねた。舞台は、中央の実力派演出・振付・歌唱指導に、地元の優秀なスタッフが加わり創り上げた。本番では、衣装・照明・音響のスタッフの力を借り、2公演満員の聴衆の感動を呼ぶステージとなった。

普及系事業

- 「オペラレクチャー」として、『青島広志のおしゃべりオペラティックコンサート』では青島氏の卓越したピアノと軽妙な解説に先導され、名場面で演技を交え歌声を披露され、聴衆の反応はよかった。この他、中山館長がマスターを勤める『喫茶 ばらの騎士』2回に加えて、切り口を変えて講座を計7回開催した。一部宣伝不足で参加者が少なかった面もあるが、オペラに対する理解が進んだと考えられる。
- 国民文化祭1年前イベントと共同で開催した『アトリうむ遊園地』は、約4,000人の親子連れが集まり、大盛況であった。「ARTS（音楽と美術）が生み出すキッズパーク」をコンセプトに、美術館との連携も図れ、対象も学齢前児童から小学生低学年にしたことが有効で、多くの入場者を確保したことは、高く評価できる。
- 「歌舞伎レクチャー」は、定評のある講師で2回の講座とも好評であった。動画、写真を交えてわかりやすく、軽妙な語り口で、登場人物の設定や素性など基本的な事項から実際の場面に応じた的確な見所指摘などが行われた。
- 「邦楽のススメ」は、紙切りと太神楽を取り上げ、大分会場以外に、九重会場

で実施した。寄席の出し物の中でも落語と違い地方でほとんど上演されないものを紹介し、実演もあったことから、子どもから年輩の方まで幅広い年齢層の参加があり、皆、伝統芸能を身近に感じられたと評価が高かった。

- 「舞台メイク・ワークショップ」では、舞台に映えるメイクということで、有名俳優やタレントのメイク担当者（大分県出身）を講師に迎えた。参加者は、ミュージカル・演劇以外にもフラダンスやベリーダンスなど様々なジャンルから集まり、関心の高さが窺えた。
- アウトリーチ・コンサート『しあわせストーリー』は、積極的に地域の学校・公民館等にアーティストを派遣して40回のコンサートを行った。クラシック音楽に触れる機会の少ない人に、クラシック音楽の楽しさや生の演奏の迫力を身近に味わってもらうように工夫してコンサートを組み立てており、受入れ側の評価は高かった。今年度は、小中学校への働きかけを強め、派遣回数を昨年比倍増することができた。また、若いアーティストにとっても、聴衆の側に立ってコンサートを見つめ直す機会となっており、地元アーティストの育成としても有意義である。
- 日田市での土砂災害を受け、『音楽による心の復興コンサート』を企画し、ワンコインコンサート出演アーティストの協力をいただき、被災者への音楽の贈り物を届けた。小規模であったが、ひとときを楽しみ、喜んでいただき、目的を達成した。

9-2 美術館利用者アンケートに基づく課題分析の結果、業務改善の実施状況及び自己評価【美術館】

(1) 利用者アンケート調査の実施状況

①調査の概要

3月に施設利用者74団体を対象に利用満足度に関する、一斉アンケートを実施した。（55団体回答、回答率74.3%）

②結果分析

一斉アンケートの調査結果は以下のとおり。

ア 利用回数

- 3回目以上の利用者が54.5%と展示室を中心にリピーターが定着してきている。アトリウムに関しては積極的な利用促進に取り組んだ結果、初めて利用した方の割合が高かった。
- リピーターには開館当初より使いやすくなったという意見を頂いている。

イ 利用理由

- 「立地が良い」を選択した利用者が最も多く、「知名度が高い」、「施設・設備が充実」が続く。

ウ 利用料金

- 「普通」が47.1%、「やや高い」が33.3%と大半を占める。
- 大分県立美術館を利用することで集客が増えたという意見も多く、利用料金は適当であると考えられる。

エ 職員の対応

- 「満足」が81.4%、「やや満足」が14.8%で、「やや満足」以上が96.2%と高い評価をいただいている。
- 「不満」の回答は無かったが、「やや不満」は1件あった。今後さらなる自己研鑽や研修によるスキルアップにより全ての方に満足いただける対応を目指す。

オ 利用申請手続き

- 「簡単」、「普通」で94.5%と高い数字になっている。
- 「面倒」とした回答は3件のみであったが、事務改善により可能な限りお客さま負担の軽減を図る。

カ 利用満足度

- 「大変満足」、「ほぼ満足」で90%を越え、多くの利用者に満足していただいている。「不満足」、「非常に不満足」の回答は1件もなかった。

キ 次回利用

- 「是非使いたい」と「使いたい」の回答が94.5%とほとんどのお客さまが次の利用を希望されている。今後も企画展と貸館の調整を図り、利用しやすい美術館の運営に努める。

(2) 業務改善の実施状況

施設利用者や入場者からの意見、要望に対して、次のとおり業務改善を行った。

- 展覧会によっては「展示物に照明が反射して見づらい。」という意見があったため、閉館後を利用しながら常に微調整を行った。
- 展示室内で写真を撮りたいという意見が多く寄せられたため、所有者等と可能な限り撮影許可の交渉を行い、北大路魯山人展やイサムノグチ展などでは撮影可能な作品を提供することができた。
- 「コレクション展の解説文の文字が小さい。」、「解説文の位置が低く見にくい。」、「トイレへの案内がわかりにくい。」など、誘導サインについての意見があり、案内板の増設、表示文字の拡大をはじめとする改善に取り組んだ。
- 夏の繁忙期を前に職員及び委託業者のスタッフを一堂に集め、AED研修会を実施した。
- 館内掲示物については配置や文字の色など常に改善。デザインを意識しつつもお客さまに分かりやすくなるよう対応した。

- 入場券購入の際のクレジットカード利用の要望に応え、クレジットカード決済システムを導入。平成30年度から運用を行う。
- 貸出用展示台の汚れが目立ってきたため、クロスの張替えを実施。
- 貸出用ワイヤーの数を増やして欲しいという利用者の声に応え、100本追加し、利便性を高めた。

(3) 指定管理者としての全体的な自己評価

① 事業評価委員会の開催

2月23日に美術館の企画内容について、有識者の意見をいただく事業評価委員会を開催した。自己点検評価表等により説明を行った後、企画展や美術館運営、活動等に対する意見を求めた。今後は評価委員会での意見も参考に、目標に向かって企画展を実施していく。

(委員の意見)

- 目標入館者数を11月で達成したことは素晴らしいが、ジブリの美術館自主企画としての評価は議論すべき。県民が求めるものに応じていくのも美術館の大事な役割ではあるが、研究や教育普及にも結びつく展覧会が必要。ジブリは貸館の範疇。
- 素描の魅力展は入場者が少なかったが、コレクションを活用する展覧会は重要。ただ、チラシには、あまり魅力を感じない。もう少し工夫が必要。
- 山頭火の展示を見たが、客が私以外に2人。中身がわからない、覚えられない「展覧会名(歌心と絵ごころ)」だと思った。もう少し工夫が必要。
- 九州の展覧会入場者数TOP20のうち1位、2位は大分と長崎のジブリであった。九博はTOP3にも入っていなかった。
- 東博の名品はブランドとして認知。OPAMも初年度長谷川等伯の屏風で入場者が激増した、それもある意味戦略。一方、九博の桃山展では、長谷川等伯の屏風と併せて、狩野永徳の屏風も並べたが、思うように入場者数が伸びなかった。上品ではないが、注意喚起が必要。どのように客をリードするか、泥臭く引っ張ってくる必要がある。
- 魯山人展のギャラリートークは、和服の人などもいて盛況。
- 11月半ばで来館者数が50万人を越え、現在は61万人程度。開館初年度である平成27年度の1月末時点を越えている。入館者数は、評価。
- 色んな分野やジャンルの展覧会を幅広く行って欲しい。
- 最近は、子供たちが多。ジブリなどをきっかけに、敷居が低くなっていると感じる。
- 企画選定には、マーケティングリサーチが必要。
- 県民の方は、「日本の中世」「日本の近代」「日本の近世」「工芸」というような順番で関心を示す。「現代美術」には県民の関心は向かないようだ。
- 都市型美術館のあり方として、多様性が求められている。
- JAXA・JAMSTECの科学展を来年度行うようだが、子どもの興味を引き付ける

ような科学の視点も大事。

- 「素描の魅力」は面白かった。東京のダ・ヴィンチVSミケランジェロのよう
に見るポイントがわかればもっと面白くなる。
- 「美術館展覧会に求められるもの」「大分県民の支持」ということを考えると、
意表を突くような展覧会が多かった。
- 自身が絵画制作をしているので、偏ったものの見方をしているのかもしれない
が、色んな人に見せていくというのは難しい。(ジブリのような)特別な展覧
会が好評であったというのも、そのようなところからか。

② 業務の取り組み内容に関する評価

ア 施設及び設備の維持管理及び修繕

- 常に職員が高い安全意識を持ち、県をはじめとした関係機関との連絡調整
を徹底しながら管理・運営を行った。
- エレベーターなど専門性を有する設備等については、業者による点検を定
期的に実施したほか、異常箇所があれば即座に連絡を取り合う体制を確立
した。
- 駐車場については、入出庫及び駐車が円滑に行なわれるよう管理体制を整
備した結果、満車時などにおいて総合文化センターと連携した誘導を行う
ことが出来た。

イ 施設の利用及び利用者の便宜供与

a 施設利用に係る申込受付等の対応

- 展示室利用の受付では申込者が多く利用希望日が重複するため、第3希望
まで記入していただいた上、美術館で日程調整を行ない、全ての申込みを
受け入れることが出来た。
- 展示室の利用にあたっては、必ず事前に施設利用者と財団職員で打合せを
行ない、スムーズな催事運営を導いた。

b お客様からの要望や意見等への対応

- 利用者の声を直接受け入れるため、美術館内に意見箱を設置。
提案されたご意見に対し、実現可能なものから改善に取り組んだ。

10-1 施設設備の維持管理状況【総合文化センター】

(1) 建築物及び建築設備の維持管理業務

① 日常の点検業務

適正な管理を実施するため、日常の点検に力を注いだ。特に各施設の使用後点
検を中心に異常箇所の早期発見に努めることで、ホール客席の不具合や手摺のが
たつき等施設・設備の異常に素早く対応し、次の施設利用者が安全に催事を実施
できる環境を整えた。

② 長期改修計画の作成

当施設は開館後20年が経過し、小修繕の案件が増加するとともに、建物や機器については、今後、高額な改修費用が生じてくる。施設利用者に安全に施設を利用いただけるように、また、費用負担の大きい改修工事を計画的に実施できるように、県施設整備課と共同で長期改修を計画し実施している。29年度はiichikoグランシアタ舞台機構（吊り物ブレーキ装置、滑車、ワイヤーロープ更新）及び音響改修工事を実施、またバリアフリー対策としてグランシアタ多目的トイレを増設、館内多目的トイレにカーブミラーと音声ガイドの設置工事を実施した。

③ 建築設備の維持管理業務

各建築設備においては4月1日付けで締結した委託業務契約に基づき、次のとおり定期点検等を実施し、正常な状態の維持管理に努めた。

・衛生設備

点検の結果、雑排水槽・汚水槽において故障や不具合はなかった。また、環境汚染等が発生しないよう、適正に点検、測定、調整を行った。

また、美術館の衛生設備と併せて契約を締結し、スケールメリットを活かした管理を行った。

・昇降設備

エレベータ、エスカレーターについては、定期的に安全装置の調査を行ったほか、必要に応じて機能試験を行い、事故や不具合を未然に防いだ。

・電気設備

施設の各高圧受電室における接地抵抗測定、高圧絶縁抵抗測定、保護継電器試験、高圧ケーブル絶縁診断試験、受電設備盤内高圧機器点検及び清掃等を実施した。

・その他設備

ゴンドラ保守点検、通信弱電設備及び自動ドア保守点検、空気環境測定、飲料水水質検査について、施設の安全かつ快適な利用を維持するために点検業務を適正に行った。

(2) 舞台機構・音響設備・照明設備の維持管理業務

① 舞台機構

三精テクノロジーズ（株）九州営業所と締結した委託業務契約に基づき、各ホールの迫り、音響反射盤、バトン等の舞台機構については、毎月1回定期点検・調整を行い（9月、2月は電気制御装置保守点検をあわせて実施）、設備の初期性能を維持するとともに、障害を未然に防止した。

② 音響設備

ヤマハサウンドシステム（株）福岡営業所と締結した委託業務契約に基づき、以下の保守点検を6月と1月の年2回実施した。iichiko音の泉ホールの備品に不具合箇所が増えていたため、県で実施する大規模改修で音響設備の改修を計画的に

実施した。その他、軽微な修理等は委託先の負担により対応した。

- ・音響調整卓、効果卓
- ・電力増幅器
- ・各機器の接点及びスイッチ関係
- ・I T Vカメラ、モニターテレビ等 I T V設備
- ・その他点検を必要とする音響機器

③ 照明設備

丸茂電気（株）福岡営業所と締結した委託業務契約に基づき、以下の保守点検を6月と12月の年2回実施した。軽微な修理等は委託先の負担により対応した。点検の中で催事に支障をきたすような異常はなかった。

- ・調光主幹盤に関する点検、調整、増す締め
- ・分岐盤に関する点検、調整、増す締め
- ・サイリスター調光器盤に関する点検、調整、増す締め、各負荷回路の絶縁抵抗試験、調光出力電圧測定
- ・照明操作卓に関する動作試験、各種波形測定、調整
- ・舞台袖操作盤、各動作点検、調整
- ・舞台照明機器類及びボーダーケーブルの点検、整備

（3）備品等の維持管理業務

- 舞台、練習室、楽屋、会議室、県民ギャラリー等の備品については、施設の運営に支障をきたさないよう、適正な管理を行った。
- 利用頻度が高く公演の出来を左右するホール貸出用ピアノについては鍵盤、ハンマー、ペダル、整音等の保守点検を実施することで高い水準を保持した。
- 貸出施設の備品において劣化の見られるものについては、新規で購入し気持ちよく利用していただける環境を整えた。

（4）植栽等の維持管理業務

- 大分市シルバー人材センターと締結した委託業務契約に基づき、ホールや iichiko アトリウムプラザに配置された39本の自然木を当施設の愛称であるオアシスにふさわしい環境づくりのもと、灌水、施肥、剪定、枯葉撤去等を定期的に行った。
- 美術館の植栽管理業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを活かした管理を行った。

（5）清掃業務

- 第一ビル管理（株）と締結した委託業務契約に基づき、次の業務を行い、快適な空間を提供することができた。
 - ・日常清掃（日又は週を単位として定期的実施）
 - ・定期清掃（月を単位として定期的実施）
 - ・使用後清掃（ホール等使用後に実施）

- ・特別清掃（6か月を単位として定期的実施）
 - ・廃棄物処理（1日1回実施。ただし休館日、土・日・祝日を除く）
 - ・害虫駆除（6か月に1回実施）
- 美術館の清掃業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを活かした管理を行った。

（6）保安警備業務

- （株）NIKKOと締結した委託業務契約に基づき、次の業務を行い、施設内の秩序を維持し、事故や犯罪、災害から来館者の安全を確保した。
- ・楽屋口警備業務（大ホール、中ホール）
 - ・駐車場警備業務
- 美術館の駐車場警備業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを活かした管理を行った。
- 複合施設の統括管理者である（株）エフ・ティー・シー大分と密接な連携を図り、iichikoアトリウムプラザなどに配置された警備員や防災センターを中心とした保安体制を取った。

（7）施設及び設備の軽微な修繕

- 職員による日常点検のほか、防災センター、舞台スタッフ等と連携して、軽微な修繕が必要な箇所についても直ちに発見できるように努めた。
- 現場で対応が可能な修繕については専門技術スタッフを擁する防災センターに依頼し、それ以外の修繕については直接業者に早急な対応を依頼した。

10-2 施設設備の維持管理状況【県立美術館】

（1）建築物及び建築設備の維持管理業務

① 日常の点検業務

美術館の各施設・設備については、設備保守の契約を締結した合同産業（株）と連携し的確な点検により適正な管理を行えるよう、日々の工夫を重ね、確認された初期不良については速やかに県に報告し、協議を行った。

② 建築設備の維持管理業務

各建築設備においては4月1日付けで締結した委託業務契約に基づき、次のとおり定期点検等を実施し、正常な状態の維持管理に努めた。

・衛生設備

点検の結果、汚水槽、雑用水槽において故障や不具合はなかった。また、環境汚染等が発生しないよう、適正に点検、測定を行った。業務についてはiichiko総合文化センターの衛生設備と併せて契約を締結し、スケールメリットを活かした管理を行った。

・昇降設備

エレベーター、エスカレーターについては、定期的に安全装置の調査を行なったほか、必要に応じて機能試験を行ない、事故や不具合を未然に防いだ。

・その他設備

通信弱電設備及び自動ドア保守点検、空気環境測定、飲料水水質検査について施設の安全かつ快適な利用を維持するために点検業務を適正に行った
また、ガラス水平折戸や展示室可動壁など美術館特有の設備については、利用前に設置業者に立会ってもらい安全を確認して動作するなど、リスクを想定しながら運用した。

(2) 備品等の維持管理業務

- 各備品については施設の運営に支障をきたさないよう、適切な管理を行った。
- 不具合が生じた備品については、県及び美術館設計事務所と連絡を取りながら改修を加えるなど、お客さまが安全に利用していただける環境を創出した。

(3) 植栽等の維持管理業務

- 総合文化センターの植栽管理業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを活かした管理を行った。

(4) 清掃業務

- 第一ビル管理（株）と締結した委託業務契約に基づき、次の業務を行った。
 - ・日常清掃（日又は週を単位として定期的に実施）
 - ・定期清掃（月を単位として定期的に実施）
 - ・使用後清掃（展示室等使用後に実施）
 - ・特別清掃（6か月を単位として定期的に実施）
 - ・廃棄物処理（1日1回実施）
- 総合文化センターの清掃業務と併せて契約を締結し、一体管理のスケールメリットを活かした管理を行った。

(5) 保安警備業務

- 美術館内の警備業務については、日本連合警備（株）と締結した委託業務契約に基づき業務を行い、施設内の秩序を維持し、安全の確保に努めた。
- 駐車場等外構警備については、(株)NIKKOと締結した委託業務契約に基づき業務を行った。総合文化センターの駐車場警備業務と併せて契約を締結し、満車時の他施設への誘導などを徹底して行うなど一体管理のスケールメリットを活かした管理を行った。

(6) I P M（総合的病害虫管理）管理業務

- 文化財保護の観点から、美術館特有の業務としてI P M管理業務があるが、イカリ消毒(株)と締結した委託業務契約に基づき業務を行った。業者と財団スタッフによる定期的なモニタリング報告会に加え、警備・清掃・カフェ・ショップ、サ

ポータースタッフなど、関係者が参加しての講習会を開催するなど、全館体制で I P M業務に取り組んだ。

(7) 施設及び設備の軽微な修繕

- 職員による日常点検ほか、設備委託業者等と連携して軽微な修繕が必要な箇所についても直ちに発見が出来るように努めた。
- 特殊設備が多く、不具合が生じる部分もあるが、県・美術館設計事務所・業者等と継続して修繕箇所の調査や情報提供を実施し、可能な事から修繕等の対応を実施した。